

下で待機していますから、何かあったら御連絡くださいとロビーで待機されていた。途中で退席されるかと心配したが、最後まで、あのゆったり穏やかな微笑みで会場の様子を楽しまれていた。

私は同じテーブルだったので、何か召し上がっていたかどうかと思ひ、

「お皿にお取りしますが、何かお好きでしょうか」と伺っても、

「自分で好きな物をいただきますから、気にしないでください」とおっしゃって断られた。ホテルのスタッフの方が取り分けてくださっていたが、余りお口にされていなかった。

けれどもお話しは壇上に立たれて、マイクを使って声量のある、力強いお声で、かなり饒舌に長いお話しをされた。子どもの頃、鹿島で鯛を釣った話。よく釣れたのだが、釣り針から鯛を外せなくて、兄嫁さんに外してもらった。また投げ込むと、すぐまた釣れた。

現在国道を、海岸線に沿ってふわりの先の方に来ると、あの美しい海が見えない。壁が海を遮断してしまっている。津波対策だと言うが、全くばかばかしい。瀬戸内海には、そんな津波なんか来やしない。と言ひ、総務庁の局長に栄転された坂本氏に、何とかしてくださいよ、などと言っていた。

また、隠れキリシタンの資料がバチカンで出てきた。ローマ法王が持っているのが明らかになったという。菊間のあたりに隠れキリシタンの墓が残っているようで、河野水軍のあの一带には、まだ掘り出されていない凄い歴史が眠っている。それをキチンと調べて書くのだと熱弁された。内から溢れ出てくるものを、何としても吐き出したいのだと言わんばかりのお話だった。

二〇一五年、高縄会百回記念は大きな変化の年になった。

早坂氏が体調不良を理由に退かれることになった。東京を離れて北条に帰らしいとのことだった。

早坂氏の追悼を自分なりにしたくて、古い記録を紐どき、早坂氏の言葉を心に拾い出してみた。

先生の郷土を愛する熱い思いが押し寄せてくるようだ。

微力ながら、先生のお心は引き継いで行きたいと思ひます。

先生、どうか見守っていてください。